

重点保護地区における「奈良のシカ」生息環境の改善 (特にシバ地) について

1. 奈良公園平坦部に生息するシカの主要な餌資源

奈良公園のシカの食性は、グラミノイドと広葉樹が餌植物として重要なこと、その他に季節ごとに展開する草本類や種子類などを適宜摂食している傾向は他の地域と共通の傾向であるが、グラミノイドはササ類がほとんど生育していないため主にシバであること、広葉樹は落葉樹の落葉が主であること、人からの給餌があることが特徴となっている（鳥居ら, 2000）

2. シバ地の量的評価

奈良公園平坦部（若草山を含む）におけるシバ地面積は、平成元（1989）年調査では 39.8ha（鳥居, 1990）（図 1）、平成 26（2014）年では約 60ha（シバ以外の草本群落を含む）であった。

令和 2（2020）年に奈良公園平坦部の生息環境把握のために、相関植生図を作成した。奈良公園平坦部（274.4ha）中、草地面積は 52.5ha であり、そのうちシバが生育している面積は 34.5ha（16.0%）であった（奈良県, 2021）（図 2）

測量方法が異なるため厳密には比較できないが、平成元（1989）年と令和 2（2020）年の結果を比較すると面積の大きな変化はないと考えられる。

年	シバ地面積 (ha)	出典
1989	39.8 (平坦部 14.32、若草山 25.48)	鳥居 (1990)
2014	約 60 ※シバ以外の草地を含む	辻野 (2015)
2020	34.5	奈良県 (2021)

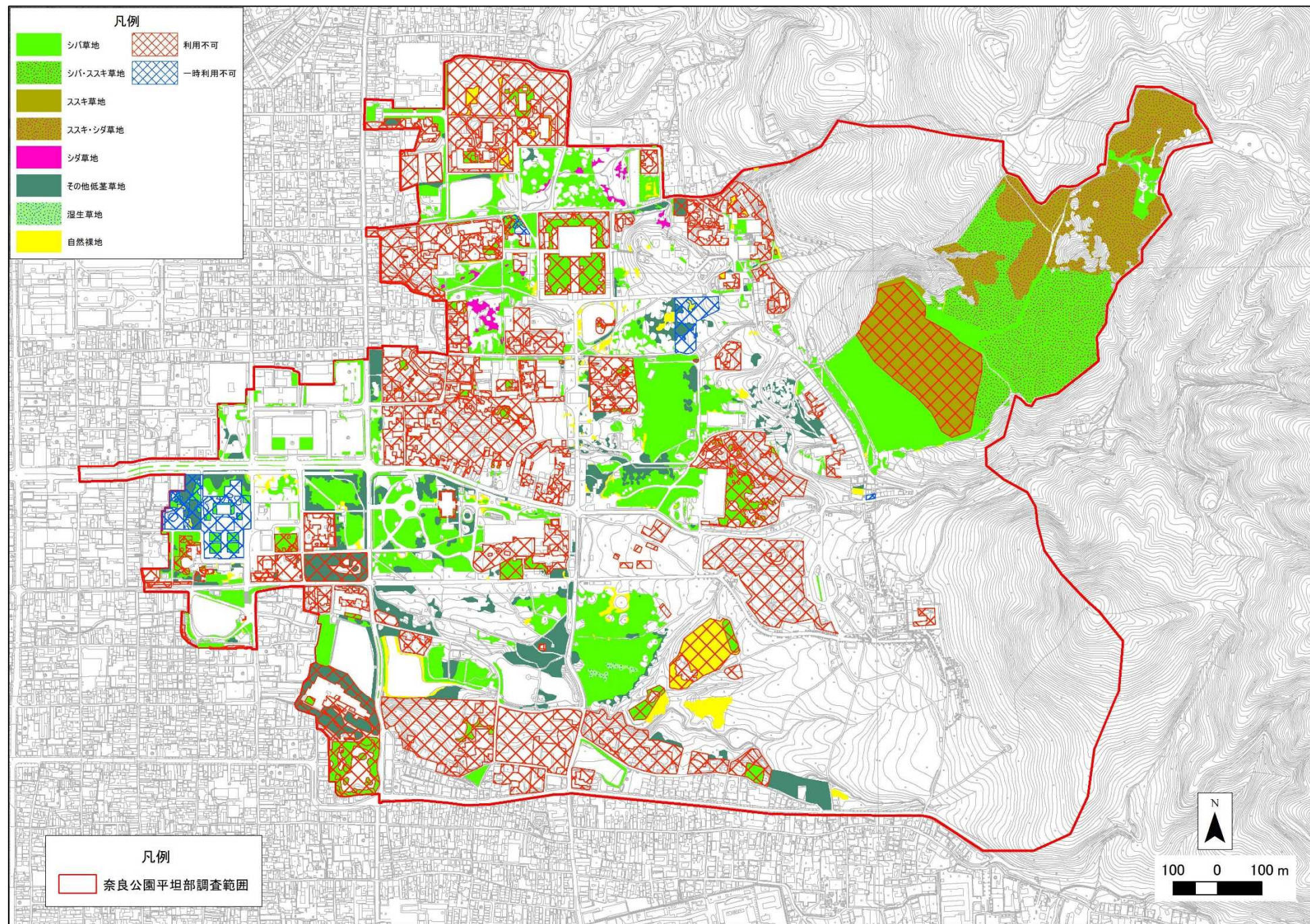


図 2 令和 2（2020）年における草地の分布（奈良県, 2021）

3. シバ地の質的評価

奈良県(2021)によると、シバ等のイネ科が優占するシバ草地が 27.78ha、シバ以外の草本やコケが優占するシバ草地(その他低茎草地)が 2.72ha、裸地化が進んでシバの生育量が少ない場所(自然裸地)が 3.65ha 存在していた(表 1)。

シバ地の質的評価については、上記以外の詳細な調査は実施されていないが、重点保護地区内のシバ地は、観光客による踏みつけや、シカ自身による採食、踏みつけにより裸地化が進んでいる。

今後、シバの質的評価とその分布状況の把握が必要と考えられる。

表 1 シバ地の状況

	
シバ等のイネ科が優占するシバ草地 「シバ草地」	その他の植物が混生するシバ草地 「その他低茎草地」
	
コケ類が優占するシバ草地 「その他低茎草地」	裸地化が進んだシバ草地 「自然裸地」

4. 保護計画における課題、目標、取り組み内容（奈良県, 2022）

【課題】

「奈良のシカ」の餌環境は、重点保護地区内のシバ地は、観光客による踏みつけや、シカ自身による採食、踏みつけにより裸地化が進んでいる。また、イチイガシやスダジイといった堅果（ドングリ）類を生産する樹木が生育している範囲が限られているとともに下草がほとんど無くなっており、「奈良のシカ」の餌環境は悪化している。

【目標】

重点保護地区である奈良公園平坦部において、「奈良のシカ」の生息環境を改善することを目標に取組を実施する。

【取組内容】

「奈良のシカ」の主要な餌となるシバ等の草本類を確保するため、シバ地や樹林地の下層植生の再生・保全策の検討を引き続き行う。また、イチイガシやスダジイなど「奈良のシカ」の餌となる堅果（ドングリ）類を生産する樹木の保全や植栽の検討を引き続き行う。なお、これらの検討は、関連する奈良公園植栽計画検討委員会と情報共有を行いながら実施する。

5. 保護計画の策定以後のシバ地の再生・保全に関するこれまでの取組

- ・令和5年度に浮雲園地におけるナンキンハゼ伐採跡地におけるシバの補植（447 m²）
- ・3委員会意見交換会における奈良公園平坦部（若草山を含む）におけるシバ地の現状の共有

6. シバ地の再生・保全策の論点、検討課題

以上を踏まえて、シバ地の再生・保全策の論点及び検討課題を表2に整理した。

表2 シバ地の再生・保全策の論点及び検討課題

論点	検討課題
現状のシバ地の質的な評価	・シバを含む草地の質的な評価を行う現地調査方法 ・再生・保全の優先度が高い場所の抽出、面積の把握（目標と関連）
目標とする質、量の検討	・どのような質のシバが必要かの検討 ・どこでどれだけ再生・保全する必要があるかの検討 ・現在の高密度状態においてどこまで実現可能か（長期/中期/短期目標の設定） ・シバの再生により環境収容力が上がり、生息数が高く保たれることによる春日山原始林への影響や C、D 地区への農業被害への影響予測
再生・保全計画	・柵による一時的な植生保護の有効性検討（再生速度を踏まえた植生保護期間、開放後の群落の持続性（ヒトの踏圧・シカの踏圧・シカの採食圧影響）、規模） ・観光客による踏圧抑制方法（例：公園内の導線確保、進入禁止等のゾーニング） ・春日山原始林や農業被害等への影響評価及び対応方法 ・餌環境改善による個体群への効果モニタリング方法

【参考文献】

- ・鳥居佐江子（1990）奈良公園におけるシバの種子生産, 自然と教育 第2号, p1-4.
- ・鳥居春己, 鈴木和男, 前迫ゆり, 市本佳紀（2000）奈良公園のシカの胃内容物分析, 関西自然保護機構会誌 22 (1), p13-15.
- ・辻野亮（2015）奈良公園平坦部におけるニホンジカ生息環境評価のための相関植生図, 奈良教育大学自然環境教育センター紀要, 16, p.45-50
- ・鳥居春己, 高野彩子（2015）高密度にニホンジカ（*Cervus nippon*）が棲息する奈良公園におけるシバ地植生の生産量, 奈良教育大学自然環境教育センター紀要, 16, p.37-43.
- ・奈良県（2021）令和2年度 春日山原始林内シカ生息状況調査及び奈良公園平坦部植生調査業務委託（奈良公園環境整備事業）報告書
- ・奈良県（2022）天然記念物「奈良のシカ」保護計画